

## インターナショナルフェアトレード in コロンボ

2005年8月5日にスリランカで「インターナショナルフェアトレード in コロンボ」がスリランカで開催された。その当日の様様を写真で紹介する。

今回のイベントは、日本フェアトレード委員会から、昨年（2004年）8月ラジャパクサ スリランカ首相（現大統領）へインターナショナルフェアトレード開催が提案され、スリランカと日本の共同の実行委員会が結成され、1年間準備をしての開催になった。

準備の取り組みは、困難が多かったが、困難を乗り越え開催された。スリランカでは、準備の途中に史上未曾有のスマトラ沖地震津波災害があったことで、スリランカでの準備や、日本からの訪問者も減る、旅行代理店引き受けの問題、準備のための資金不足など多くの問題や困難があった。

開催が危ぶまれた時もあったが、日本からスリランカへフェアトレード準備のために幾度も訪問し、スリランカと日本で共同の実行委員会が結成され、フェアトレード大会の開催に漕ぎ着けた。スリランカは、準備のために、少ない経費で、実に一生懸命このイベントの成功のために、力を注いでくれた。日本からの人々を心から歓迎してくれた。

### インターナショナルフェアトレードマーク

右のマーク図は、2005年のインターナショナルフェアトレードを記念したマークである。

スリランカのナショナルユースセンターの学生が「世界の仲間は手をつなぎ、共に歩きましょう」ということを意味して、作られたロゴマークです。

このマークは常にメイン会場に飾られ、それ以降スリランカでのフェアトレードと日本フェアトレード委員会が使っています。



### 会場は多目的な大きなホール

ナショナルユースセンターは、日本からのODAで建てられたものと説明された。普通会議場と言えば、日本は冷暖房の効いた立派な文化会館など想像する。

この会場は全くクーラーが無いということだったので、三味線を弾く着物の女性のことを心配した。会場の建物は天井が高く、日常はナショナルユースセンターの学生の体育競技、地域団体の集会、音楽会などに使われ、1000人ほど収容できる。

私たちが会場に一杯の人たちで迎えてくれた。これだけ入っても、クーラーはないが、暑さを感じないのは不思議である。



50名を超える日本人と、また韓国からも20人ほどの学生も参加した。

写真は会場のマハラガマユースセンター  
開会式会場に集まった人たち、  
左スリランカと日本国歌斉唱

## 貴賓としての歓迎の御案内

日本フェアトレード代表団を心のこもった歓迎をしてくれた。

フェアトレードのメイン会場まで、私たち一行の御案内を文化担当大臣とスリランカ民族伝統の踊りと太鼓で、案内してくれた。スリランカでは、公式的なセレモニーでは、従者としてこのような踊りが行なわれる。貴賓の案内、結婚式の新郎新婦の案内などで私も見かけたことはあるが、まさか私たちにこのような思いがけない案内があるとは思わなかった。そのために日本からの一行はびっくりと同時に嬉しい限りだった。



スリランカの伝統的太鼓と踊りに先導されて  
大臣や役員と会場に入場（上・右写真）



王様と女王様の服装で参加者を歓迎



民族衣装を着たきれいなお嬢さんが、素敵な花を  
日本からの参加者全員の胸につけてくれた。

## セレモニーの開会

フェアトレード開会セレモニーは、スリランカの国家と日本の国家斉唱の後、オイルに点灯するオイルランプセレモニーが行なわれた。これはランプに点灯するメンバーがスリランカ側 5 人日本から 5 人の 10 人が点灯して、これからセレモニーは始まる。



オイルランプの点灯をしている

写真の真ん中にある大きなオイルランプの金の蜀台にオイルとろうそくが入っていて、点火棒で一人一人が順番に点火していく儀式である。

参加した人たちがみんな見つめる中、厳粛な心になっていく。これから儀式の始まりである。



## 国際文化交流の意義

国際交流は、国の文化の違いを認めながら、お互いその違いのから、人と人、国、人種、民族の相互理解が進むものである。その意味での今回の目的はスリランカの人たちとの文化交流は大きな意味があった。

## 日本の伝統的文化芸能の発表

スリランカ在住 30 年 日本山妙法寺 高島行一上人による和太鼓で日本の文化でオープニングとなった。近藤潔美三味線グループのコンサートの舞台上で、日本の名曲組曲や伝統的民謡など、華麗な演奏が披露され、三味線演奏や尺八など日本の伝統芸能音楽にスリランカ人の心を引きつけた。は大変喜んでいた。

また、今回新体操には会場一杯繰り上げられる躍動感あふれる高校生グループの新体操演技は観客を魅了した。



三味線の演奏



必由館高校の新体操披露

## 津波災害支援のために

TYUNAMI という言葉さえ知らないスリランカの人に、大変な災害が降り注いだ。

フェアトレードツアー団は、スリランカ津波災害復興を願って、参加者メンバーによるいろんな支援がなされた。



小学校の先生から 書と絵画の贈呈

スリランカはスマトラ沖地震による津波災害によって、一瞬の内に 3 万人以上の死者と 10 万世帯を超える家屋の喪失、100 万人を超える罹災者。

学校、病院、公的施設、ホテル、レストラン、地域の橋、電車、バスなど、津波にあった地上のものをすべて、なめるようになくしてしまった津波災害。



左 スリランカ津波災害復興を祈念した書道  
災害復興発展の文字

右 シンハラ語で「幸せなら手をたたこう」

の歌を歌うフェアトレード

参加者 メンバー

## スリランカの伝統文化発表

民族衣装と音楽、そして踊りや歌は、スリランカの生活、文化、歴史を感じさせる素晴らしいものだった。



スリランカの様々な伝統ダンス



フィナーレは日本の炭鉦節

## フィナーレ

炭鉦節を三味線に合わせてスリランカ人も飛び入りがあり、共に一緒に仲良く踊る。

学びができたスリランカのフェアトレード

フェアトレード代表団参加者全体を通じては、みんな自分の国際交流の役目を持ち、自ら国際交流の主人公として、活躍できた。

代表団参加者全員の盛り上がりは、スリランカ人にも大きな感銘を与えた。

## 最後に

50人近くの人々の参加なので、様々な思いがあるので、報告を全部するのは大変なことなので、開会当日に限って、報告をした。

スリランカ側にとっても、まったく未知なる取り組みだったにもかかわらず、それを乗り越え成功裡に終わったことは、スリランカの災害復興、経済立て直し、文化興隆などに、スリランカ人の志の高さがあったことが、困難を乗り越える力になったと思う。

今回は、幾つもの反省点があるが、一度経験したことの意味は実に大きなものである。これをきっかけに次回はもっとステップアップできればと思う。

ここで紹介できなかったが、フェアトレードビジネスセミナーも開催され、コンピュータの講義に約60人の学生が集まり、お花の指導には、多くのスリランカ人が参加し学びの場を作ることができた。指導をしてくれた参加者にお礼申し上げます。

また、この大会に参加されたメンバーとこの大会にご協力頂いた方々にも心よりお礼申し上げます。

## インターナショナルフェアトレードフェスタ in コロンボまでの活動経過

インターナショナルフェアトレードがスリランカで開催されるようになるまでには、幾つかの活動があった。

- 2002年日本フェアトレード委員会が熊本で設立された。
  - ・榎ナチュラルコーヒーの招きで、現在ブラジルでオーガニックコーヒー生産者イバン・フランコ・カイシェッタ氏による「オーガニックコーヒーとフェアトレード」講演会を行なう。彼はコーヒー生産者と同時にコーヒー学の教授もしている。
- 2003年5月 第1回国際フェアトレードフェスタ in 九州開催  
ブラジルから再度オーガニックコーヒー生産者イバン・フランコ・カイシェッタ氏  
農林水産省農林水産研究室長 篠原孝氏 環境問題の基調講演  
九大農学部大学院教授 村田武氏 コーヒーの経済講演
- 2003年12月日本スリランカフェアトレードプロジェクトをスリランカで結成
- 2004年5月 第2回 国際フェアトレードフェスタ in 九州開催
  - ・アマヌガマ・スリランカ大使記念講演
  - ・スリランカ FAO (国連食糧農業) スガタ・パーラ氏講演
- 2004年7月スリランカフェアトレードツアー14人参加
- 2004年8月にフェアトレードスリランカ開催の実行委員会結成
- 2005年5月スリランカフェアトレード責任者 ピヤティッサ・ガマゲ氏来日
- 2005年8月インターナショナルフェアトレードフェスタ in コロンボ開催

### 「フェアトレードを語る 代表清田和之」のあいさつ要旨

セレモニーのあいさつで、日本からは清田和之代表があいさつした。その内容は、今回のフェアトレードの意義と、フェアトレードとは何かを述べた。参考にその要旨を掲載する。



みなさんこんにちは！

私は日本&スリランカフェアトレードプロジェクト代表の清田和之と言います。私の隣にいるシンハラ語の通訳は、スリランカに30年住んで、私の高校の同窓でもある日本山妙法寺の高島行一上人です。

最初にこのイベントの準備をしてくれたナショナルユースセンターの人たちはじめ、多くのスタッフの方に感謝申し上げます。

また youth & sports affairs 大臣と small & rural industry affairs 大臣はじめ、この大会のため、会場準備をしてくれた関係スタッフの方々に感謝いたします。

そしてこの会場に来ていただいた参加者のみなさま、はるばる遠く日本から来ていただいた方にお礼申し上げます。

さて今回の「インターナショナルフェアトレード in コロンボ」は、南の国のスリランカと北の国の日本が、貿易を公正にすること、そして、国際文化交流を行い良好な友好関係をつくるのが一番の目的で開かれるものです。

1990年代からフェアトレードは、ヨーロッパやアメリカで盛んになってきました。日本では最近になってフェアトレードの言葉を聞くようになりました。しかしスリランカでは、フェアトレードについて殆どの方が知りません。実は生産国であるスリランカにとって、フェアトレードは貿易を公正に、貿易の商品価格を守る上にとっても大切なことです。

私たち日本フェアトレード委員会は、スリランカと日本にフェアトレードを広げる目的で、2003年12月にスリランカのNGOグループの有志と一緒に、スリランカ人と日本人が参加した「日本&スリランカフェアトレードプロジェクト

ト」を結成しました。

12月にはスリランカの津波災害が発生し、3万人以上亡くなり、フェアトレードの開催も心配されたのですが、スリランカ実行委員の開催への熱い気持ちがそれを乗り越え、今回開催されました。

私たちはフェアトレードについて次のように定義しています。

一つは、フェアトレードは「生産者の顔が見える貿易」ということです。私たち日本人は紅茶を多くスリランカから輸入して飲んでいますが、紅茶を誰が作っているのか、どこで、どのように作っているのかわかりません。

そこで、生産者の顔、消費者の顔を合わせると言う意味で、「顔と顔」「face to face」をコンセプトにしています。

もう一つは、多くの南の国の農業生産者は、貧困を余儀なくされています。そこで消費者側はこれらの産品を生産者が生活できるような適切な価格で買うことです。

話は少しそれますが、スリランカは現在紅茶の生産地として有名ですが、もともとスリランカは世界でコーヒーの産地でした。1860年代にコーヒー農園から紅茶農園に切り換えられ、今では世界有数な紅茶産地となっていますが、このようなコーヒー産地だったという歴史の事実はあまり知られていません。

現在フェアトレードプロジェクトはスリランカコーヒーを復活させ、フェアトレードでスリランカコーヒーを買う努力をしています。私たちはそのようなスリランカコーヒーをフェアトレードで輸入する計画を持っています。

さらにプロジェクトがやっている仕事は、その際フェアトレードコーヒーは、

- ・フェアトレードにより生産者の生活を守ること。
- ・地域の経済活動と福祉が向上すること。

3つめの最後ですが、

- ・フェアトレードは世界の平和に貢献することです。

特に今回のフェアトレードイベントは、文化交流がメインです。日本の伝統的音楽が行われます。そのことでスリランカのみなさんは感動すると思います。またみなさんの音楽、踊りに私たちは感動すると思います。

文化交流は、世界の人たち、言葉や民族、国が違って、その感動は心をつなげることができます。それこそが世界の平和につながる道です。

このような3つの意義を持つフェアトレードをこのスリランカで開催できたことを嬉しく思います。

最後になりますが、今日のために準備をしてくれた、この会場のナショナルユースセンターのみなさまと、ここにご参加いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。

私のごあいさつとします。ありがとうございました。(2005年8月5日)

スリランカのジーワン・クマラトンガススポーツ青年省大臣から、お礼のメッセージが届きました。

Dear Mr. Kiyota,

I am pleased to extend my sincere thanks to you for organising Japan Sri Lanka joint cultural show, in collaboration with the National Youth Services Council.

his event has been very important in strengthening friendship and cooperation between youth in Japan and Sri Lanka. I wish our friendship would continue forever.

Yours sincerely,

Jeevan Kumaranatunge.

Minister of Sports & Youth Affairs.

Sri Lanka